

<p>【講習コース2】労働環境のリスク評価・リスクとばく露管理</p> <p>〈ばく露評価と管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばく露評価の基礎・作業環境測定・評価 ・ばく露測定・評価法、測定と分析・リアルタイム測定器 ・個人ばく露濃度測定の進め方、リスク判定、管理対策、報告、事例 ・バイオロジカルモニタリング ・気中ばく露濃度推定モデル、ボックスモデル等 <p>〈リスク評価と手順、方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価・リスク管理の手順・コントロールバンディング ・危険性又は有害性等の調査等に関する指針（添付資料を含む。）（厚生労働省）の理解 ・化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針（添付資料を含む。）（厚生労働省）の理解 	<p>②-3～46 ③-101～115</p> <p>②-46～62 ②-62～107</p> <p>①-75～93、②-149～204</p>	<p>②-3～49 ③-98～117</p> <p>②-49～66 ②-66～117</p> <p>①-92～105、②-163～217</p>
<p>【講習コース3】労働環境のハザード評価</p> <p>〈ハザード情報とその区分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険有害性概論・GHSとハザードクラス（化学物質の健康有害性に加え危険性の説明も含む）、ハザードカテゴリー・MSDS・ハザード情報の収集、ハザード情報源、データベース ・量－影響関係・量－反応関係・閾値・NOAEL・LOAEL・不確実係数 ・ばく露限界値の設定 ・許容濃度（職業的ばく露限界値 OEL）、日本産業衛生学会値等 ・ACGIH-TLV（TWA, CV, STEL） <p>〈発がん物質〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学発がん（発がんの機序、発がん性分類、職業性がん） <p>〈化学物質等による毒性総論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質等による毒性総論（標的臓器、健康影響、職業性疾病） ・標的臓器の医学、機能と生理学（粉じんの健康影響に関連して「気管と肺」、脳・神経毒性に関連して「脳・神経系統」、皮膚の「構造」と「皮膚吸収」） <p>〈毒性物質の体内動態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の生体内動態、分布、代謝、排泄（肝臓・腎臓の医学、機能、生理学の説明を含む） 	<p>①-168～171、203～206、209～210、359～424、②-345～375</p> <p>①-224、273～277、302～303、②-153～162</p> <p>①-213～214、306～307、373～374、406～408</p> <p>①-210～250</p> <p>①-250～289</p>	<p>①-204～207、239～242、245～246、385～430、②-357～392</p> <p>①-260、300～304、328～329、②-168～177</p> <p>①-249～250、331～332、390～392、420～421</p> <p>①-246～285</p> <p>①-286～317</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 毒性の発現機序 <化学物質の毒性の検出方法> ・ 毒性試験とその種別 ・ 構造－活性相関 	①-291～323	①-318～349
<p>【講習コース4】 物理的有害因子のリスク管理</p> <p><温熱、気圧、騒音、振動、超音波のリスク管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温熱作業条件と影響及びリスク管理 ・ 異常気圧下作業と影響及びリスク管理 ・ 騒音下作業と影響及びリスク管理、超音波と影響及びリスク管理（聴覚器官の医学・解剖学を含む） ・ 振動を伴う作業環境と影響及びリスク管理 <p><非電離放射線のリスク管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電磁場と影響及びリスク管理・紫外放射と影響及びリスク管理・可視光 ・ レーザー光と影響及びリスク管理・眼の医学・解剖学 <p><電離放射線のリスク管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電離放射線と影響及びリスク管理・非確定的影響と確率的影響 ・ 放射線防護・被ばく防止対策 	③-259～269	③-263～273 ④-54～77 ④-78～102 ④-103～113 ④-114～128 ④-129～159 ④-160～174
<p>【講習コース5】 生物的有害因子のリスク管理</p> <p><生物的ハザード因子とその性質></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 微生物・細菌・ウィルス・真菌・原虫・プリオン <p><生物的ハザードによるリスクとその評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿主・感染経路・室内空気汚染・捕集、測定・健康影響・レジオネラ <p><リスク削減対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスク削減対策・リスク管理 	④-176～190 ④-191～200 ④-200～215	
<p>【講習コース6】 一般環境のハザード・リスク評価、リスク管理</p> <p><環境科学概論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気汚染・ダイオキシン類・PCB ・ フロン（オゾン層への影響） ・ 水質汚染・土壌汚染・上水道と下水道 ・ 地球環境・環境汚染事例 ・環境倫理 <p><環境保健概論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境汚染物質のヒトへの影響 ・代謝 ・ 毒性試験・生体濃縮・発がん物質 ・ ばく露評価法・リスク評価・リスク管理 ・ 環境保健問題の事例 	①-425～435、②-249～286 ①-436～471、 ②-109～146、 ②-205～218 ③-280～294	①-431～443、 ②-263～294 ①-443～478、 ②-118～159、 ②-218～231 ③-284～298

<p>【講習コース7】 労働衛生工学概論</p> <p>〈有害化学物質等の発散抑制のための工学的対策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料の考察・工法・工程の改良・発散抑制設備等とその原理及び設計（密閉設備、局所排気装置、プッシュプル型換気装置、全体換気装置等） <p>〈排ガス・粉じん・廃液の処理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排ガス及び各種ガス処理装置・浮遊粒子状物質処理装置・各種除じん装置・廃液処理装置とその原理及び設計 <p>〈保護具〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種類・構造・機能・管理、使用、取扱い上の留意点・防護係数・密着性の評価 	<p>①-188～225</p> <p>③-226～255、 ③-270～280</p> <p>③-255～258</p>	<p>③-191～228</p> <p>③-229～258、 ③-274～284</p> <p>③-258～262</p>
<p>【講習コース8】 環境管理の工学的対策（作業環境、一般環境）</p> <p>（労働環境のリスクアセスメント、マネジメントに関連する工学的事象を中心に）</p> <p>〈化学工学の基礎〉</p> <p>〈流体力学の基礎〉</p> <p>〈粉体工学の基礎〉</p>	<p>③-161～187</p>	<p>③-165～190</p>
<p>【講習コース9】 労働衛生学及び人間工学的課題</p> <p>〈人間工学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間工学的対策・作業方法・作業姿勢・作業負担の改善 ・ 上肢作業・交替制勤務（深夜業務）・照明・VDT作業・職業性腰痛 <p>〈健康管理概論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康管理の意義と目的・標的臓器・正常値・許容値・一般および特殊健康診断の目的・健康診断の事後措置・過重労働等に係る面接指導等 ・ 健康管理に関する情報の管理・健康管理手帳制度・企業外労働衛生機関 <p>〈労働衛生教育概論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場における労働衛生教育・労働衛生教育の目標・労働衛生教育の実際 <p>〈職業性疾病概論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業性疾病・有害要因別の職業的健康障害・作業関連疾病・特定の労働者の健康管理（シックハウス、化学物質過敏症等）・産業保健 <p>〈精神保健概論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健対策のあゆみ・精神障害者の医療・地域精神保健福祉対策・精神障害者と社会復帰・心の健康づくり・メンタルヘルス 	<p>③-97～100、 ③-116～119、 ④-218～237</p> <p>②-315～338、 ③-120～131</p> <p>③-132～135</p> <p>①-135～150</p> <p>③-87～88 ③-150～158</p>	<p>③-95～98、 ③-118～122、 ④-218～237</p> <p>②-323～349、 ③-122～134</p> <p>③-134～137</p> <p>③-137～155</p> <p>③-85～86 ③-155～162</p>

<p>【講習コース 10】 公衆衛生概論</p> <p>〈衛生統計学概論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口静態統計・人口動態統計・生命表・健康状態と受療状況 <p>〈食品保健および栄養概論〉</p> <p>〈衛生行政概論〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生行政の沿革 ・ 衛生行政の組織 ・ 保健所 	<p>③-79~91</p> <p>③-91~94</p> <p>③-94~96</p>	<p>③-77~88</p> <p>③-88~92</p> <p>③-92~94</p>
<p>【講習コース 11】 疫学調査</p> <p>〈疫学調査の目的、動機、位置付け〉</p> <p>〈疫学調査法の分類〉</p> <p>〈疫学調査の実施例〉</p>	<p>①-340~354、</p> <p>②-289~303</p>	<p>①-366~380、</p> <p>②-297~311</p>
<p>【講習コース 12】 リスクコミュニケーション</p> <p>〈残留リスク、リスクコミュニケーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスク削減・残留リスク管理 ・ リスクコミュニケーション（GHS ハザードコミュニケーションは除く）・危機管理 	<p>②-221~248、</p> <p>②-307~312、</p> <p>②-341~345、</p> <p>②-376~398、</p> <p>②-401~405</p>	<p>②-235~262、</p> <p>②-315~320、</p> <p>②-353~357、</p> <p>②-393~415、</p> <p>②-419~423</p>